

はじめに

本書は、1988年2月13日（土）に鹿児島大学本部棟4階会議室で、鹿児島大学南方海域研究センターが主催したシンポジウム「フィリピンの宗教と社会」の全記録です。

このシンポジウムの目的は、四つの問題領域すなわちカトリシズムの土着化と民衆のキリスト理解の問題、祈りの形態としての聖地巡礼、1986年のフィリピン＜二月革命＞にいたる政治社会危機とカトリシズムとの関係、そしてマニラ首都圏におけるイスラム教徒社会の問題をとりあげながら、東南アジアの島嶼国フィリピンにおける宗教と社会の実際のありようを議論することにあります。東京・大阪・福岡からご参加いただいた演者の方々、総合討論のまとめ役を引き受けて下さった方は、いずれも歴史学あるいは人類学の分野でフィリピン研究を進められている第一人者であり、会場には100名近い出席者を得てきわめて有意義な研究発表と意見交換の機会となりました。この記録が、こうした問題領域に関心のある方々のあいだで話題の一つになることがあれば幸いです。

シンポジウムの開催にいたるまでには、多くの方々のご協力をいただきました。研究発表および司会をつとめて下さった先生方、井形昭弘学長、林満先生をはじめとする研究小委員会の先生方、井上晃男センター長をはじめとする南海研センターのスタッフの方々に深く感謝申し上げます。録音テープから原稿をおこす作業には、花月彰子氏のご協力をいただきました。総合討論の部の記録については、一部録音が完全でなかった部分があり、また本記録を編集中には発言者で海外出張中の方もあったため文責は編者にあります。

シンポジウムの主催者である鹿児島大学南方海域研究センターは、1988年4月に改組され、南太平洋海域研究センターとして新たに発足しましたが、同研究センターに対して、本記録の出版の機会を与えていただいたことを感謝いたします。新研究センターの一層のご発展をお祈りいたします。

1989年春

編者 寺田勇文

目 次

はじめに	iii
開会あいさつ	井形昭弘 1
シンポジウム開催にあたって	寺田勇文 2
報告1 フィリピン＝カトリック社会の歴史的形成をめぐって	池端雪浦 5
報告2 聖地バナハオ巡礼をめぐって	寺田勇文 15
報告3 <二月革命>の基層：カトリシズムの視点から	清水 展 30
報告4 マニラ首都圏のイスラム教徒	宮本 勝 44
総合討論	司会・早瀬晋三 57
閉会あいさつ	井上晃男 68